トピック

高齢者・女性の就業状況と生活満足度の関係

～仕事のやりがいに着目して～

内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付
参事官（総括担当）付
檀上 賢
川崎 七海

はじめに[1]

内閣府では、我が国の経済社会の構造を人々の満足度（Well-being）の観点から多角的に把握する取組として、2019年より「満足度・生活の質に関する調査」を毎年実施している。

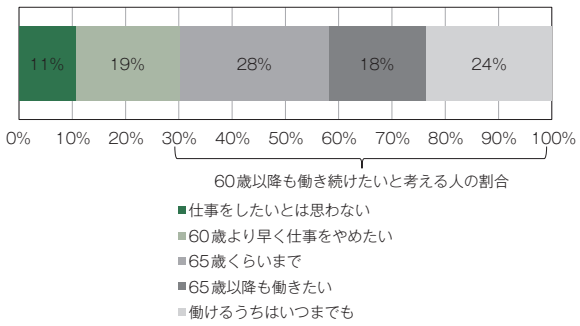
2024年に実施した第6回調査では、働き方に関連した設問を追加し、例えば、何歳まで働きたいかという就業意向について質問している。本稿では、仕事のやりがいに着目して、2024年の調査報告書の第1章第3節「働き方と満足度」の中から、高齢者の就業希望に関する内容を紹介するとともに、女性の就業状況と満足度に関する追加分析の内容について紹介する。

高齢者の就業希望・就業状況と満足度

まず、2024年の調査報告書の内容から高齢者の就業状況と満足度との関係について紹介する。

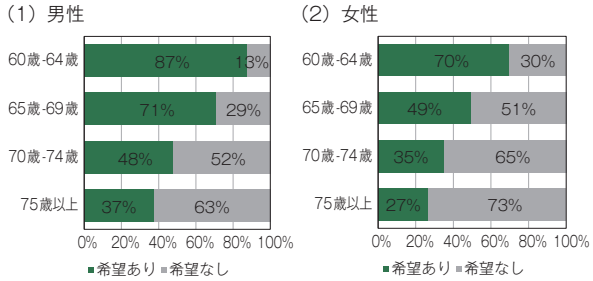
60歳未満の就業意向についてみると、60歳以降も働き続けたいと考える人は7割程度となっており、高齢者となっても働き続けたいと考えている層が一定数いることがわかる（図表1）。

図表１　60歳未満の生涯を通じた就業意向



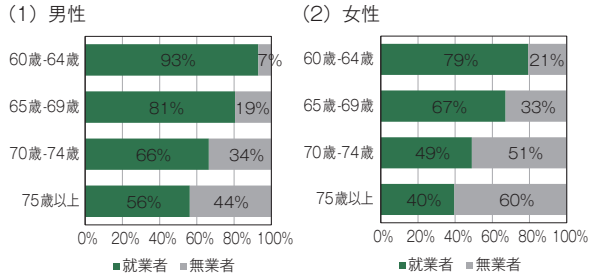
また、60歳以上の就業意向についてみると、男女ともに、年齢を重ねるほどに就業希望者の割合は低くなるものの、男性の70歳-74歳、女性の65歳-69歳の約5割が就業を希望している（図表2―1）。

図表２－１　60歳以上の就業希望割合



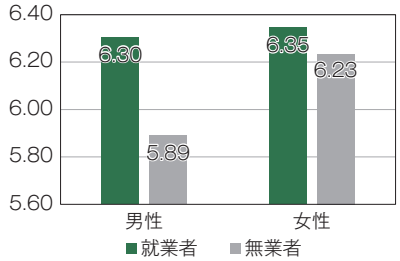
次に、60歳以上の就業希望者の就業状況をみると、男性では75歳以上でも5割以上が就業しているのに対して、女性は70歳以上で就業者の割合が5割を下回っていた。また、男女ともに、年齢の増加に伴い、就業希望者に占める無業者の割合が高くなり、年齢を重ねるごとに就業希望が実現していないことが伺える（図表2－2）。

図表２－２　60歳以上の就業希望者の就業状況



最後に、60歳以上の就業希望者の生活満足度をみると、無業者と比較して就業者の方が、生活満足度が高い傾向がみられ、男性の方が満足度の差は大きかった。特に男性において、就業希望の実現状況が生活満足度に影響を及ぼしている可能性がある（図表3）。

図表３　60歳以上の就業希望の実現状況と生活満足度

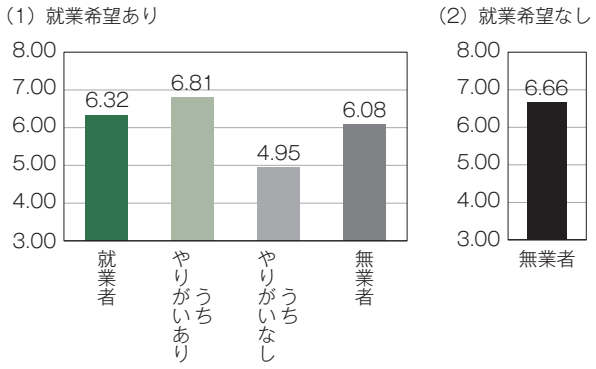


1　本稿の執筆にあたり、上野由加里参事官補佐、木村拓真政策企画専門職には多くの御指導をいただいた。ここに深く感謝申し上げます。

高齢者の仕事のやりがいと満足度

就業状況と満足度との関係について、やりがいの有無によって変化があるのかについてみていく。60歳以上の就業希望者の就業状況と生活満足度の関係について、仕事のやりがいの有無に着目して比較してみると、就業希望者のうちやりがいを感じる就業者は、やりがいを感じない就業者よりも生活満足度が高い傾向がみられた。また、就業希望者のうちやりがいを感じない就業者は、就業希望者のうち無業者よりも生活満足度が低い傾向がみられた。なお、就業希望のない無業者の生活満足度は高い傾向がみられるが、就業希望者のうちやりがいを感じる就業者の方がより高い傾向にあることが伺える（図表4）。

図表４　60歳以上の就業希望者の就業状況と生活満足度

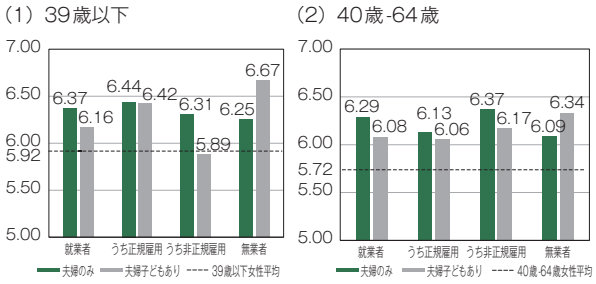


女性の就業状況・子どもの有無と満足度

次に、女性の就業状況と満足度の関係について、年齢階層と子どもの有無に着目して分析を行った。子どもがいる場合、同じ世代の平均と比べて総じて生活満足度は高い。その中で、若年層（39歳以下）、ミドル層（40歳-64歳）のどちらでも、子どもがいる場合、就業者よりも無業者（専業主婦）の生活満足度が高い傾向がみられた。

就業形態別にみると、若年層、ミドル層のどちらでも、正規雇用者については、子どもがいる場合といない場合で、生活満足度はほぼ同程度であった。一方で、非正規雇用者については、子どもがいる場合の方が、子どもがいない場合よりも生活満足度が低い傾向がみられた。加えて、若年層では、子どもがいる場合、非正規雇用者よりも正規雇用者の生活満足度が高い傾向がみられたが、ミドル層では、この傾向はみられなかった。このことから、特に若年層の子育て中の女性において、雇用形態が生活満足度に影響を及ぼしている可能性がある（図表5）。

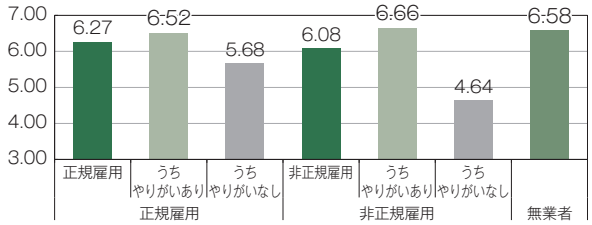
図表５　女性の家族形態・就業状況と生活満足度



女性の仕事のやりがいと満足度

やりがいを感じる就業者の生活満足度が高いという傾向は、子どもがいる女性の就業者でもみられる。子どもがいる女性の就業者の生活満足度をみると、正規雇用者、非正規雇用者のどちらでも、やりがいを感じる就業者の生活満足度は高い傾向がみられ、無業者とほぼ同程度であった。また、正規雇用者であっても、やりがいを感じない場合、やりがいを感じる非正規雇用者よりも生活満足度が低い傾向がみられる。さらに、やりがいの有無による生活満足度の差は、正規雇用者よりも非正規雇用者の方で大きかった（図表6）。

図表６　子どもがいる女性の就業状況と生活満足度



おわりに

本稿では、高齢者や女性の就業状況と生活満足度の関係をみてきた。仕事へのやりがいが、生活満足度に大きな影響を及ぼしている可能性が示唆された。Well-beingの観点からみると、働きたいと希望を持っている高齢者の就業率を単に上げることや、女性の正規雇用の割合を増やすことだけでなく、高齢者や女性がやりがいを感じて働くことができるように、職場環境や制度を整えていくことも重要であると考えられる。なお、これらの調査結果は現状の生活満足度を示すものであるが、政策を通じ、経済・社会の構造が変わることで、生活満足度は変化する可能性がある。今後も適宜設問の見直しを行い、必要な分析を進めていくことで、各種調査データから得られた分析結果が政策運営に活かされていくことを期待したい。

檀上　賢（だんじょう けん、福山市より派遣）
川崎 七海（かわさき ななみ、山梨県より派遣）